
冬のサーカス

パパゴッチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冬のサーカス

【Nコード】

N0648G

【作者名】

パパゴツチ

【あらすじ】

パリの屋根裏部屋で同棲していた二人。別れが近づく。最後の思い出に「冬のサーカス」へ行くことにした。

冬のサーカスの興行場所は知っていた。グラン・ブルバール筋の途中にある。サーカスの名の通り、丸いテントの屋根が、まるでイスラム教徒の王宮のように、頂に旗を翻していた。

冬のパリ。厚く垂れ込めた雲の下で、街は呼吸していた。怒りや興奮に声を失った人のように、または歓喜のあまりに泣きだす人のように、人々は感情の先端の中で沈黙していた。

年の瀬、昼間の明るさは魔法のように消え去り、すぐに黄昏がやってくる。三時を過ぎると、ちらほらと街に灯りがともる。そう、そんな夕方、僕は彼女と冬のサーカスに行ったのだ。荘厳なジンタが流れる中、やせこけた男と女が、空中ブランコと一緒に弧を描いていた。

ぶらん、ぶらん。

見ているうちに、自分が揺れた。僕はそつと彼女の手を握った。彼女が強く握り返した。手を握りあつたまま、僕は曲芸に見入っていた。見ながら、この手を絶対に離してはならないと、心のどこかで叫んでいた。おそろく、つないだ手から、その声が彼女に通じたのだろう。（ずっとこのままでいたい）という彼女の声が、僕の心に届いた。

しかし、刻一刻、僕らは別離に向かっていった。航空チケットは、パスポートと一緒に旅行バッグの中に押し込まれていた。すでに部屋の片づけは済んでいた。

夢のような一年間だった。中庭に臨んだ屋根裏部屋で彼女と戯れているうちに、あつという間に過ぎた。その夢から醒めなくなかった。だから、僕は何度も帰国のスケジュールを延ばした。しかし、それにも限界がある。

最期の日が近づくにつれ、僕は無口になった。悲しみや痛みを通り越して、なぜ時間は過ぎていくのだろっ、どうして止まってくれないのか、そんなことばかり考えていた。

僕らの手元に残ったお金をどう使おうか、高級なレストランで食事でもしようかと、僕は彼女に尋ねた。二人の最後の記念に。彼女はサーカスが見たいと言った。

ぶらん、ぶらん。

テントの中は、不自然な熱気に包まれていた。最後の大技が始まるうとしていた。痩せた男女は、ブランコの柄を掴んだまま、それぞれが両極に振れた。ブランコは反転し、互いに中心に近づき、頂点に達したところで、二人は同時に身体を空中に投げ出した。

小さな悲鳴が上がった。僕らも浮き上がった。

その空中ブランコは、確かに僕と彼女のものだ。二人で演じていたのだ、ブランコの曲芸を。僕らは抱き合ったまま、空間の中を漂っていた。

（なぜ、こうしているの？）

（わからない、昨夜サーカスの夢を見たせいじゃないのかな）

（それは、あなたの夢でしょ。私は運河の吊り橋の上で抱き合う夢

を見たわ)

(夢が重なったのさ)

(そうかしら)

(たぶんね。そうとしか説明がつかない)

(いいわ、何でも。こうして揺れていると、全てが夢見たい)

(そうさ、夢さ。夢なんだから、もっとおおげさに揺れよう)

僕は揺れた。手を繋ぎ、手を離し、そして、すれすれのタイミングでまた握り、遠心力を体に感じながら揺れた。

突然、音楽が消えた。いや、大きな人々の悲鳴でかき消された。何人かの男が席から立ち上がり、大声で怒鳴り始めた。ハンカチを目に当てて泣いていたり、頭を抱えたまま視線を落したりしているのは女たちだ。ごく数人だけ、手を叩いて嗤っていた。

僕は演じているのだろうか、観ているのだろうか？

夢を眺めているのだろうか、夢から眺められているのだろうか？

どちらでも構わない。二人がしっかりと抱き合っているのは確かなのだから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0648g/>

冬のサーカス

2010年10月10日17時27分発行